カンボジア王国の世界遺産・アンコール遺跡

鈴木　淳[1)]

2016年2月，カンボジア王国の世界遺産アンコール遺跡群について，石材とその劣化に関する研究に長年に渡り携わっておられる早稲田大学内田悦生教授の案内で見学する機会を得た．遺跡の石材には，砂岩やラテライトが使用されている．美しいレリーフや石像，建築物の様子を紹介する．参考文献は，本号の鈴木ほか（p. 238-248）及びその文献を参照されたい．

第1図　アンコール・ワットのレリーフ写真．

A）寺院遺跡であるアンコール・ワットのの中回廊（第二回廊）のデヴァター像．デヴァターは，ヒンズー教の三主神の一つであるシヴァ神の数百に上る神妃と解される．寺院壁面の連子窓の間などに配置され，アンコール・ワットのほか，タ・プロム遺跡，プレア・カン遺跡には多数のデヴァターが刻まれている．アンコール・ワットの中回廊のデヴァター像は，写真のように何人も連なって刻まれているものが多い．当時の宮廷に仕えていた女官や踊り子たちをモチーフにして彫られたとされている．

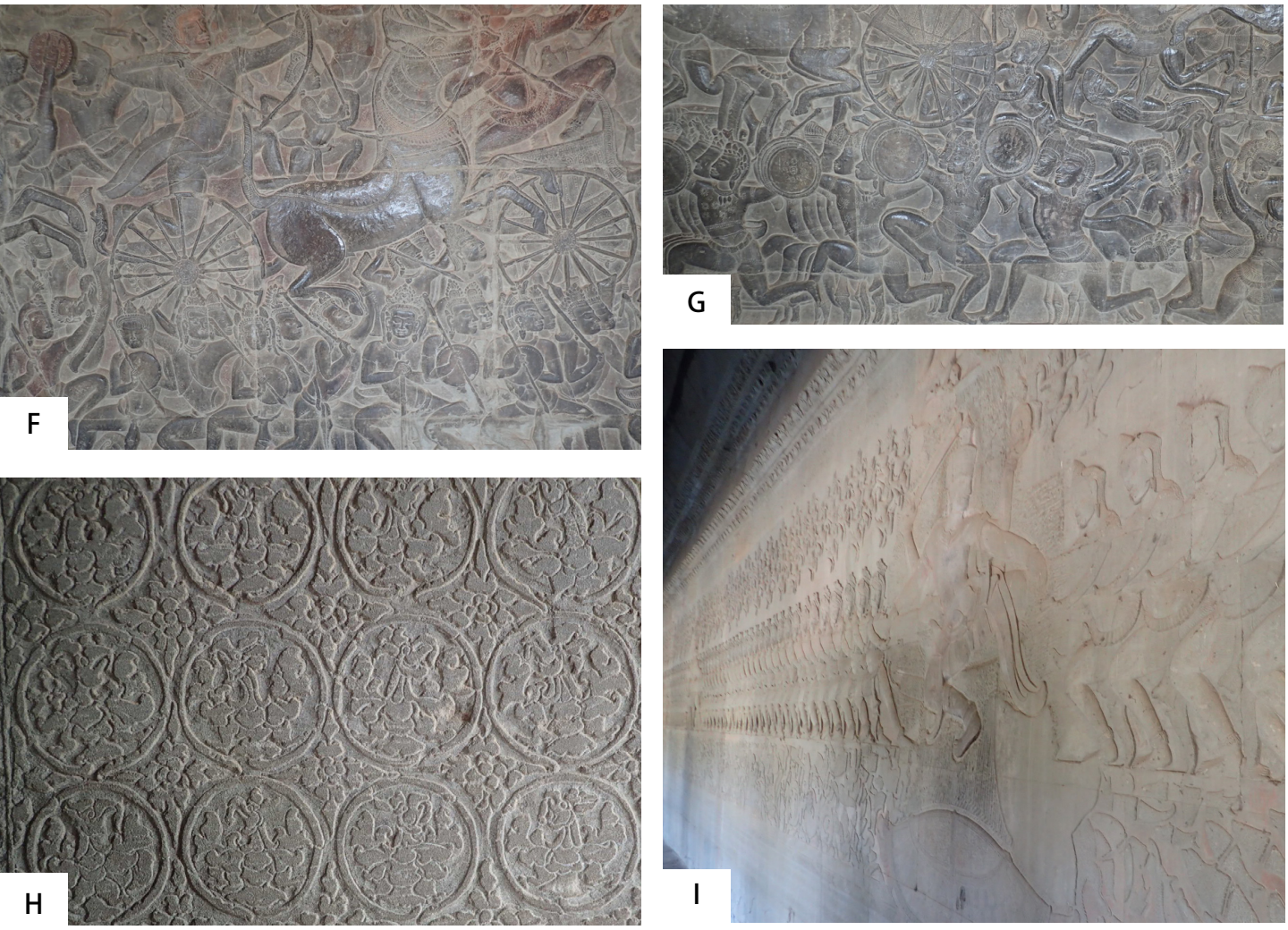
B）アンコール・ワットの中央に位置する内回廊（第三回廊）の浅浮彫りのデヴァター像．直接風雨にさらされなかったためか保存状態がよい．特にその冠は細部まで美しい．

C）同じく内回廊の浅浮彫りのデヴァター像であるが，写真Bとは表情や衣装に違いが見られる．

D）アンコール･ワット外回廊（第一回廊）の西面南側の壁面に描かれているインドの二大叙事詩の一つである「マハーバーラタ」の物語の最終場面，クルクセートラにおけるカウラヴァ軍とパーンダヴァ軍の18日間にわたる戦い．左からカウラヴァ軍が，右からパーンダヴァ軍が進軍しており，白兵戦が繰り広げられている．中央右側では，刀を振りかざしたカウラヴァ軍の兵士と，槍を構えたパーンダヴァ軍の兵士が戦う様子が描かれている．

E）同じく，「マハーバーラタ」の浅浮彫り画の一部．

1）産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門



第 1 図　アンコール・ワットのレリーフ写真．（続き）

F）同じく，「マハーバーラタ」の浅浮彫り画の一部．馬車に乗り，弓を射るカウラヴァ軍の将兵の姿が描かれている．
G）同じく，「マハーバーラタ」の浅浮彫り画の一部．皆左側を向いていることから，彼らはパーンダヴァ軍と思われる．
H）アンコール・ワットの中央に位置する内回廊（第三回廊）の壁面に施されたレリーフ修飾．
I）アンコール・ワットの外回廊の東面南側に浅浮彫りとして描かれた「乳海撹拌図」．長さ 48 m に及ぶ大きなレリーフであるが，写真はその中央部から左側を望む．世界の中心軸であるマンダラ山に大蛇を巻き付けて，ヴィシュヌ神の指揮の下で，左側に並んだ神々と右側に並んだ阿修羅が大蛇を綱として乳海を撹拌するように引き合い，不老長寿の妙薬アムリタを生み出そうとする様子が描かれている．

（p.235 →）
第 2 図　アンコール・トムの遺跡のレリーフ写真．

A）アンコール・トムの中心部に位置するバヨン寺院の外回廊のアプサラス像．アプサラスは，インド神話及びヒンズー教における水の精であり，一般に美しい女性の姿で描かれることが多く，天女とも解される．
B）バヨン寺院の外回廊の柱に彫刻されたアプサラス神像．
C）バヨン寺院の外回廊の石彫で，クメール王国に侵攻するチャンパ軍の軍船．蓮型の兜を載せていることからチャンパ軍の兵士と考えられる．
D）バヨン寺院の外回廊の石彫で，トンレサップ湖の動物たち．ワニや鳥，亀，魚が多数描かれている．写真上部の船は，兵士の坊主頭と耳に長い孔を開けている特徴からクメール軍と考えられる．
E）バヨン寺院の外回廊の石彫で，クメール王国の象部隊の行軍風景．
F）バヨン寺院の外回廊の石彫で，トンレサップ湖でのクメール水軍．バヨン寺院の外回廊の石彫は上部が遠景で，手前に近景が配置されている．写真には 3 隻の軍船が描かれており，上から 2 つめの船には弓を持った兵士が乗り組んでいる．最下部の近景に描かれているのは，当時の人々の日常生活の風景である．

A

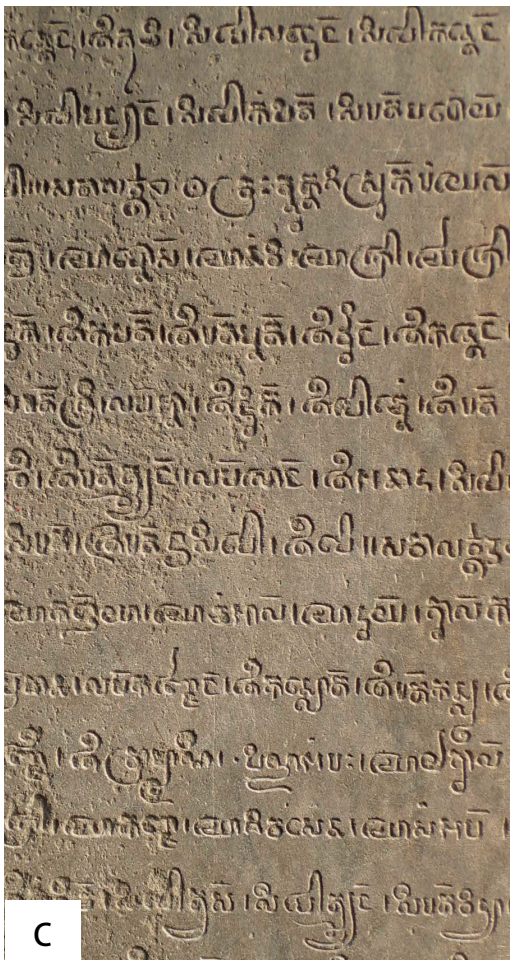
B

C

D

E

F



第 3 図　アンコール・ワット周辺遺跡のレリーフ写真.

A）タ・プロム遺跡の柱に掘られたデヴァター像．タ・プロム遺跡は，アンコール・トムの東側に位置し，1186 年にジャヤヴァルマン 7 世によって，母の菩提を弔うために建てた寺院である．祠堂や回廊のいたるところで木々が遺跡を覆う様子が見られ，観光客の記念写真スポットとなっている.

B）プリア・コー遺跡の祠堂の外壁に嵌め込まれたドヴァラパーラ像．プリア・コー遺跡は，1879 年にインドラヴァルマン 1 世によって王の先祖たちの神像を祀るために建立された寺院である．基壇上に 6 基のレンガ造りの祠堂が配置されている．ドヴァラパーラは，寺院の門柱や祠堂の柱にはめ込まれて聖域を守っている門衛神であって，男性の姿の立像である．右手に槍のような武器を携えている．このドヴァラパーラ像は，青灰色の細粒砂岩に彫刻されているため，祠堂壁面の赤色のレンガとの色彩の対比が顕著.

C）プリア・コー遺跡の祠堂の前面入口の壁面に彫刻されたクメール文字の碑文．クメール文字は，東南アジアの文字の中で最も古い文字であり，サンスクリットを表記するために用いられ，タイ語の原型にもなった.

D）プリア・コー遺跡の祠堂の軒に彫刻されたカーラに乗るヴィシュヌ神．カーラは，インド神話に登場する架空の動物神で，食欲旺盛で自らの手足を食い尽くし，終には顔だけになってしまったという．写真では，カーラの口から花綱と怪魚マカラが吹き出している.

第 3 図　アンコール・ワット周辺遺跡のレリーフ写真．（続き）

E）バコン遺跡の中央祠堂のデヴァター像．砂岩及び赤色砂岩を使用して彫刻されている．バコン遺跡は，アンコール遺跡の中でピラミッド型寺院として建てられた最初の寺院．

F）クバール・スピアン遺跡に見られる渓流の河床や岩場に彫刻されたヒンズー神や神話の彫刻．聖牛ナンディに乗るシヴァ神とその妃ウマーが描かれている．河床には，多数のリンガ（生殖と子孫繁栄の「象徴」）が彫られている．クバール・スピアン遺跡は，アンコール・ワット遺跡から北東へ約 50 km のクレン山（プノン・クレン）に位置し，シェムリアップ川の源流にあたる．白亜紀に堆積した斜交層理が顕著な石英質砂岩及び，淘汰の悪い礫岩が分布する．なお，「クバール・スピアン」は川の源流の意．クレン山は，アンコール王朝発祥の地とされる．

G）同じくクバール・スピアン遺跡のアナンタの上に横たわるヴィシュヌ神の浮彫り．ヴィシュヌ神は，ヒンズー教の三主神の一つである．アナンタは，千の頭をもつとされる蛇神．世界の始まりにヴィシュヌ神を乗せて原初の海を漂っていたとされ，ヴィシュヌ神はアナンタの背の上で眠り，世界を創造したという．

SUZUKI Atsushi（2020）Angkor, UNESCO World Heritage Site of the Kingdom of Cambodia.
（受付：2020 年 4 月 30 日）